

<先週の指標の動き>

| 指標名 | 数値 | コメント |
|--|--|--|
| 2月貿易統計 (速報、3/20) 貿易収支 輸出数量指数 (季節調整値) 輸入数量指数 (季節調整値) | 3,390 億円 前月比+6.5% 前月比▲3.0% | 2月の貿易収支は5ヵ月ぶりの黒字。 輸出数量指数 (季節調整値) は、4ヵ月ぶりに増加。中国向けの資本財や輸送機械が増加。 輸入数量指数 (季節調整値) は4ヵ月連続で減少。中国やその他アジアからの一般機械や電気機器などが減少。 |
| 2月チェーンストア売上高 (3/22) | 前年比▲2.5% (▲3.4%) (店舗調整後) | 2月のチェーンストア売上高 (店舗調整後) の前年比は、2ヵ月連続のマイナス。農産品の相場安や暖冬による衣料品の不振が継続。 |
| 2月全国百貨店売上高 (3/22) | 前年比+0.4% (▲2.9%) (店舗調整後) | 2月の全国百貨店売上高 (店舗調整後) の前年比は、4ヵ月ぶりのプラス。春節の影響で、訪日外客人向けの売上が増加したほか、株価の持ち直しに伴う消費者心理の改善によって国内需要も好転。 |
| 2月全国消費者物価指数 (3/22) 総合 生鮮食品を除く総合 生鮮食品及びエネルギーを除く総合 | 前年比+0.2% (▲0.2%) 前年比+0.7% (▲0.8%) 前年比+0.4% (▲0.4%) | 2月の全国消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合) の前年比は、ほぼ横ばい。家庭用耐久財がプラス幅を拡大する一方、宿泊料や外国パック旅行費がプラス幅を縮小。 |

※ 〈 〉 は前月の前年比

<国内景気の現状判断と当面の見通し>

(1) 国内景気の現状判断

わが国経済は足踏み感。内需は堅調も、外需が下振れ。企業部門では、鉱工業生産は、輸出が中国向けの減少を主因に伸び悩むなか、生産用機械や電子部品・デバイスなどを中心に弱含み。家計部門では、雇用・所得環境が改善するなか、個人消費は持ち直し傾向。

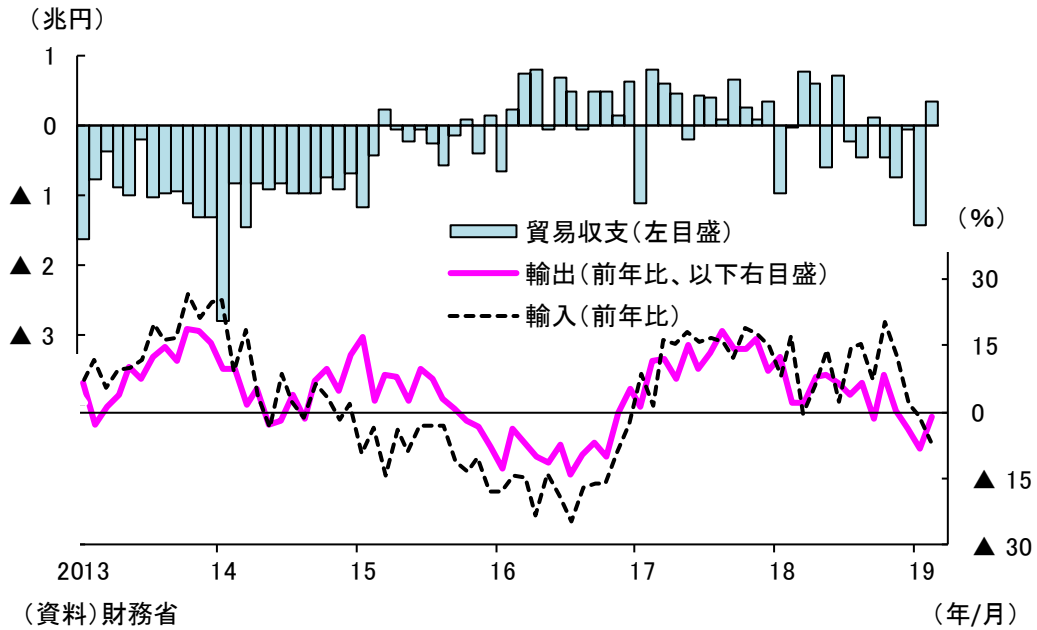
(2) 当面の見通し

先行きを展望すると、外需にはリスクが残るものの、内需主導の緩やかな回復が続く見通し。企業部門では、良好な収益環境を背景に、製造業・非製造業ともに設備投資が持ち直し。研究開発の実用化に向けた能力増強投資や、再開発プロジェクトやインバウンド需要を背景とした建設投資、災害復旧に向けた公共投資などが増加する見込み。家計部門では、雇用環境の改善が続くなか、所得環境が着実に改善。個人消費は持ち直しが続く見通し。もともと、外需では、3月1日期限の米中協議や日米物品貿易協定 (TAG) がリスク要因。

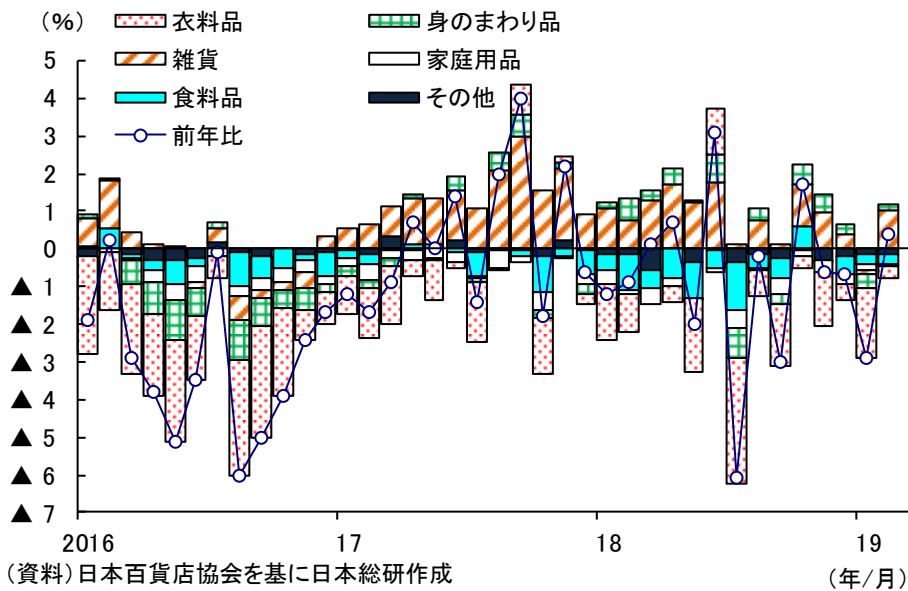
<当面の国内主要経済指標等のスケジュール>

| 月日 | 指標名等 | 発表機関 |
|----------|-------------------------|-----------|
| 3/29 (月) | 3月 消費者物価指数・東京都区部 | 総務省 |
| | 2月 労働力調査・一般職業紹介状況 | 総務省・厚生労働省 |
| | 2月 商業動態統計 | 経済産業省 |
| | 2月 鉱工業指数 | 経済産業省 |
| | 2月 住宅着工統計・建築着工統計・建築工事受注 | 国土交通省 |

(図表1)貿易収支(季節調整値)



(図表2)百貨店売上高(店舗調整後)



本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

